

経済・金融 フラッシュ

【インドネシアGDP】

1-3 月期は前年同期比+5.2%

経済研究部 研究員 斉藤 誠

TEL:03-3512-1780 E-mail: msaitou@nli-research.co.jp

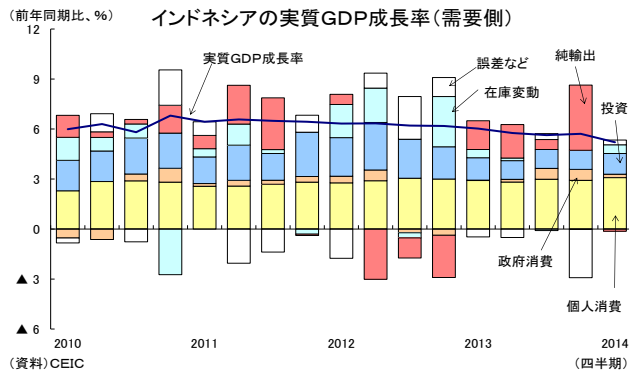
1. 1-3 月期は前年同期比+5.2%

インドネシア中央統計庁（BPS）は5月5日、2014年1-3月期の国内総生産（GDP）を公表した。実質GDPは前年同期比（原系列）で5.2%の増加となり、前期の2013年10-12月期（同+5.7%）、市場予想¹（同+5.6%）を下回った。

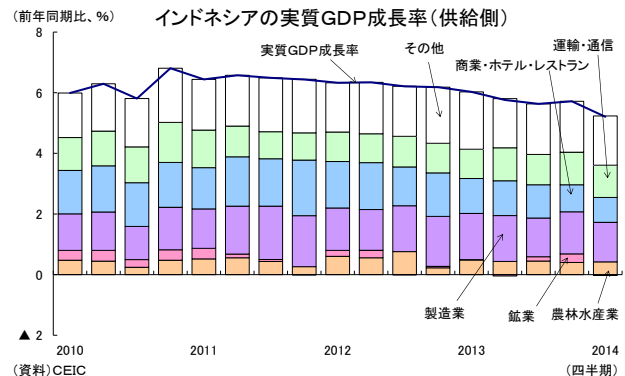
成長率の内訳を需要項目別に見ると、内需は堅調であったものの、前期に大きく加速した外需が小幅に悪化したことが分かる（図表1）。内需は、政府消費が前年同期比+3.6%（前期：同+6.4%）と減速したものの、個人消費が前年同期比+5.6%（前期：同+5.3%）、投資は前年同期比+5.1%（前期：同+4.4%）と小幅に加速したことから、内需の成長率への寄与度は+5.1%ポイント（前期：+4.7%）と改善した。外需については、輸出が前年同期比▲0.8%（前期：同+7.4%）と大きく悪化、輸入は前年同期比▲0.7%（前期：同▲0.6%）と横ばいの動きとなったため、純輸出の成長率への寄与度は▲0.13%ポイント（前期：+3.9%ポイント）と悪化した。

供給側では、主要産業である製造業が前年同期比+5.2%（前期：同+5.3%）、建設業が前年同期比+6.5%（前期：同+6.7%）と小幅に悪化したことに加え、鉱業が前年同期比▲0.4%（前期：同+3.9%）とマイナスに転落するなど第二次産業は総じて悪化した（図表2）。第一次産業も農林水産業が前年同期比+3.3%（前期：同+3.8%）とやや悪化している。第三次産業についても、商業・ホテル・レストランが前年同期比+4.6%（前期：同+4.8%）運輸・通信が前年同期比+10.2%（前期：同+10.3%）、金融・不動産業が前年同期比+6.2%（前期：同+6.8%）となるなど総じて減速した。

（図表1）



（図表2）



¹ Bloomberg 調査

2. 未加工鉱石の輸出制限措置で輸出が悪化

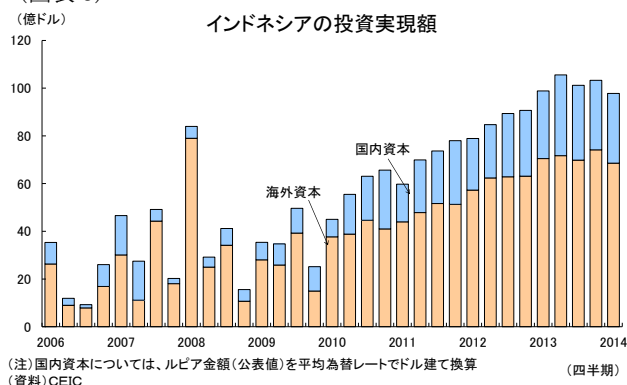
インドネシアの2014年1-3月期のGDP成長率は前年同期比で+5%台前半と、過去4年の最低水準を記録した。成長率鈍化の主因は、未加工鉱石の輸出制限措置²の影響を受けた輸出の減少である。同措置発効前（10-12月期）に駆け込み輸出、1-3月期に反動減が発生したことが成長率の減速幅が大きくしたとみられる。内需は良好でインドネシア経済の底堅さがうかがえる。

個人消費は、高インフレではあるものの、総選挙関連の支出や最低賃金の上昇、雇用者数の緩やかな増加などにより小幅に拡大した。今後についても7月には大統領選を控えているほか、3月の消費者信頼感指数（期待指数）が123.9³と1年ぶりの高水準をマークするなど、旺盛な消費需要は継続しそうだ。

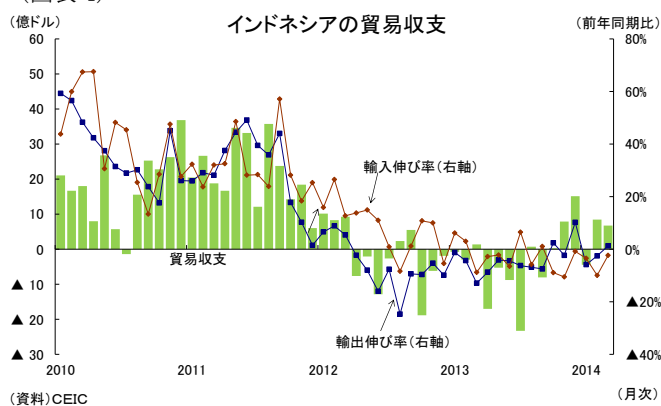
投資は、個人消費同様に加速した点は好感できるが、ルピア安で海外投資が見かけ上、増加したことには留意する必要があるだろう。実際、1-3月の投資実現額（国内投資+海外投資）は、ドルベースで見ると前年同期比でやや減少している（図表3）。積極的な利上げや総選挙後の政策の不透明感が企業の投資意欲を鈍らせている可能性がある。

輸出は、月次の貿易統計を見ると1月に発効した未加工鉱石の輸出制限措置の影響で1-3月の伸び率（前年同期比）はマイナスに転落したことが分かる（図表4）。1-3月の輸出（非石油ガス）をセクター別に見ると、主力の製造業が前年同期比+3.5%、農業が同+4.9%と拡大したものの、鉱業が同▲24.19%と大幅に減少した。石油ガスを含む輸出全体でも同▲2.4%⁴と同措置の副作用が顕著に表れている。一方、1-3月の輸入は、輸入にかかる前払い法人税の引き上げなどによって前年同期比▲5.3%と減少した。1-3月の貿易収支は黒字を確保したが、先行きの不透明感は払拭されていない。鉱石の輸出制限措置は、一時的な輸出減を受け入れつつも、国内に精錬施設を誘致することで産業の高度化を進める政策であり、中期的には貿易黒字の拡大も見込まれる。しかし、今回は政府が強行的に制度を実施したため、鉱業各社は準備が間に合わず、生産停止を余儀なくされた。現在、政府は緩和措置（製錬所の建設段階に応じた精鉱の輸出関税を優遇）を打ち出す方針であるが、その緩和措置を受けて企業が精錬施設の建造ペースを早めることができるかに注目が集まる。緩和措置が不十分であれば、最悪の場合、撤退する企業が出てくる可能性もある。

（図表3）



（図表4）



² 政府は2014年1月12日から未加工鉱石の輸出を原則的に禁止した。例外として未製錬の精鉱の輸出を認める鉱物もあるが、17年以降は全面的に禁輸になる予定。

³ 指数は100を上回ると楽観圏、下回ると悲観圏。

⁴ 貿易統計の輸出額は名目であるため、実質GDPの輸出額とは異なる。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。